



## 薄層プリプレグ(炭素繊維複合材)シートの製造技術開発

自動車・航空・宇宙などで、既存の製品をより高品質化して提供できる製造技術の開発に成功。

### 本 業 の 動 向 に つ い て

織物・編物等の製織から染色仕上げまでの一貫加工を主要業としている。繊維業界全体の景気が停滞して久しく、当社もその中に含まれており暗中模索状態である。

### 公 設 研 究 機 関 と の 連 携 事 業 に つ い て

#### 連携先公設研究機関の名称

福井県工業技術センター

#### 所在地

福井県福井市川合鷲塚町 61 字北稲田 10

#### 連携内容

開織(空気の流れを用いた)技術を利用した熱可塑性薄層プリプレグシートの製造技術開発。

#### 連携した動機やきっかけ

日頃から新しい取り組みを行うための情報収集には力を注いでいる。その中で福井県工業技術センターが『強化繊維束の開織技術』で特許を取得したことを知り、その技術を活用して薄層プリプレグシートの製造技術開発に取り組みたい旨申し出た事が共同開発のきっかけである。

#### 連携の効果

スポーツ・航空・宇宙・自動車など、既に炭素繊維を用いて製品製造を行っている分野においても、より高品質な製品を作り出すことの出来る技術を完成させたこと。細かな技術の習得と薄層プリプレグシートの製造技術開発に成功したことにより、現在では他企業と共に量産化に向けた研究を行っている。

#### 連携して最も効果のあったこと

- ・公設機関の担当者が非常に熱心な技術面の指導、サポートをしていただき社員のスキルアップに繋がったこと。
- ・研究開発に必要な器材などの設備を使用させていただき、開発費の面でもかなりの節約が出来たこと。

#### 連携して最も困難だったこと

特に感じたことはなかった。

#### 連携するメリット・デメリットについて

メリットは、自社で試験などを行おうとすれば、設備投資が発生し負担が大きくなる場所である。しかし、公設機関と共同開発をすることによって設備器材を提供していただけるだけでなく、技術提供・技術指導までして頂け、費用対効果は実に大きなものになったこと。今のところデメリットを感じたことはない。

#### 連携に際しての注意、アドバイスなど

常に研究・開発を行っているため、公設機関に頼りきった状態にしないためにも、企業側としては専任者を置いて対応する程度の覚悟が必要。

### 公 設 研 究 機 関 と の 連 携 で 行 政 に 望 む 支 援

共同研究をした際に、公設機関の抱える研究事項が多く、予算の都合からか人の数が減って研究開発案件に対応し切れていないような印象を受けた。ぜひとも研究予算の拡充をお願いしたい。

#### 会社概要

設 立 : 1968 年(昭和 43 年)

資 本 金 : 3 億 710 万円

従業員数 : 162 名

U R L : <http://www.e-mitsuya.jp/>